

2020年2月13日

2020年1月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判は学参関連が好調だったが、全体的には仕事量の減少に歯止めが効かず前年を下回った。

（前年比 94.3%）

巻取は生保関連、金融関連、不動産融資物件説明書等に動きが見られ4ヶ月ぶりに前年を大幅に上回った。

（前年比 113.6%）

再生紙平判は定期的性のある大口受注が全体の数字を押し上げ7ヶ月連続で前年を大幅に上回った。

再生紙巻取は再生紙指定が外れる案件が増え、引き合い受注の頻度が少なく9ヶ月連続で前年を大幅に下回った。

（前年比 再生上質平判 122.4% 再生上質巻取 80.8% 再生上質計 108.2%）

（前年比 印刷用紙 A 97.9%）

<A2 コート>

平判は金融、生損保のパンフレット、各企業カタログ等で動きがあったものの、全体的な印刷案件の減少と昨年の紙不足による仮需の影響もあり、グロス紙、マット紙とも前年を下回った。

巻取は生損保、教育関係で動きがあったものの、平判同様に全体的な印刷案件の減少と輸入紙の在庫消化によりグロス紙、マット紙とも前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 96.6% 巻取 72.4% 全体 91.2%）

<A3 コート>

学習塾、予備校、食品スーパー等で動きがあったものの、継続的な紙離れの影響でチラシを中心とした印刷物の案件、数量の減少が大きく前年を下回った。

（前年比 平判 97.5% 巻取 94.2% 全体 95.7%）

<ノーカーボン紙>

生損保関連の特需が一部見られ巻取は前年を上回ったが、平判は新規案件、特需、一般の動きも弱く前年を下回った。

（前年比 平判 96.6% 巻取 107.7%）

<上質フォーム>

生損保関連の動きが一部見られたものの、金融、官庁関連はじめ一般の動きが弱く前年並に推移した。

（前年比 100.9%）

<包装用紙>

特殊両更は事務用封筒、官公庁向けの封筒用途が共に目立った動きがなく低調で前年を下回った。

(前年比 86.7%)

軽包装は製本会社向けの雑包装用途や小袋の動きがあったものの、全体を押し上げるには至らず前年を下回った。

(前年比 86.7%)

片艶晒は金融証券、保険関係、オリンピック関連の平袋での動きがあり前年を上回った。

(前年比 104.3%)

両更晒は大手コーヒーチェーン店のギフト包装用途、電信電話会社向け封筒、自治体医療関係封筒、保険会社向け封筒用途での動きがあり前年を上回った。

(前年比 107.7%)

純白ロールはギフトの包装用途や花屋向けの需要はあったが、全体を押し上げるには至らず前年を下回った。

(前年比 93.1%)

包装紙全体では前年を下回った。

(前年比 91.8%)

<板紙>

バレンタイン、ホワイトデーは追加もあり比較的堅調であった。医薬品、化粧品関連も底堅く安定しており、食品関係にも動きが見られ全体的には前年を上回った。

(前年比 111.6%)